
クーデターの夜

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クーデターの夜

【Nコード】

N7977B

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

国王の八十歳の誕生日。盛大なセレモニーの最中にあるハプニングが起きた。それが、この国の運命を大きく変えていく。

辺りは夜なのに、中央広場はやけに白い月明かりに照らされている。

夜になっても国営放送が国王の誕生日を繰り返し流し続けていた。昔、この国は隣の大国の支配下にあった。戦争で隣の国が負けた時に、今の国王が独立を宣言してこの国が生まれたのだ。

そのため国民達は、国王を熱心に尊敬し、誇りに思っていた。若き王は、隣国やその他の大国にも屈せず、実際に有能な政治力を持っていた。

国王が八十歳になるまで彼を超える指導者はついに現れなかった。今日、彼の誕生日を祝う盛大なセレモニーが行われ、国民達は口々に王の優秀さを褒め称え、誕生日を祝った。

八十歳の国王は、今では椅子から立ち上がるのに杖を必要としていた。

それでも、国王の声は、尊厳と明瞭さを兼ね備えた美声だった。

「我が国民達よ、今のこの国があるのは貴方たちの絶え間ない努力のおかげじゃ」

群衆はそれを聞くとざわめき、割れんばかりの拍手が沸き起こった。

「そしてこれからこの国をより一層、素晴らしい国にしてくれるのは彼らじゃ」

国王がそう言つと、壇上の幕が開いて10歳前後の、この国の子供たちが現れた。

群衆達は、もう一度大きく拍手をした。

そして、国王がゆっくりと立ち上がると、大人達は沈黙して国王の次の言葉を待った。

だが、子供たちはふざけあって、王の椅子を取り合った。

「これは僕のだ」

「私の椅子よ」

とお互いが叫びあつた。

国王と大人達は苦笑して、その和やかなハプニングを見ていた。
やがて国王が静かに言つた。

「そうだ、この椅子もこの国もお前達、全ての子供のものなんだよ」
すると、生意気そうな男の子が一人出てきて、国王の杖を蹴飛ばした。

「今日から僕が王様だい」

国王は、杖を奪われてその場に倒れこんだ。

今まで和やかだった大人達も、さすがに慌てふためいた。

王を警備していた者も、相手が子供なのでどうすればいいかわからないでいた。

大人達もどうすればいいのかわからなかった。

誰一人、国王を助け起こそうとしなかったため、その十分程の間、国王は地面に這いつくばっていた。ただ沈黙が続き、大衆がその様子を見守っていた。

子供達は、まだ椅子や杖を取り合つて争っていた。

結局、十分が過ぎた頃、医者たちが国王を医療室に運び出した。

その夜も、国营放送では繰り返しそのセレモニーの様子が流された。

国民の誇りの象徴であつた国王が、惨めな姿で這いつくばり、子供達が好き勝手に暴れまわっている様子だ。

次の日の朝、セレモニーの行われた同じ中央広場で国王が処刑された。国外に権威を示せなくなった王に対して危機感を抱いた軍部がクーデターを起こしたのだ。

新しい国王は、セレモニーで騒ぎを起こした子供の父親で、軍の指揮官の一人だった。国外に権威を示すために相応しいと軍が判断したためだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7977b/>

クーデターの夜

2010年12月14日18時33分発行